



# PREX NOW

No. 159

November  
2006

財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

## contents

page 1 ● 研修関係者の声  
実り多い実績を、ベトナムの未来へつなぐ

page 2 ● 訪問先同行記 1  
バイタリティあふれる  
研修参加者たちとの10日間

page 3 ● ニュース&レポート  
世界銀行のネットワークを利用した新たな試み

page 4 ● 訪問先同行記 2  
新しいカメラに日本の最新情報を記憶!

page 5 ● ひとこと  
国際貢献を日本の文化に—生産性国際交流  
財団法人 関西生産性本部  
専務理事 辻本健二氏

page 6 ● PREXだより  
事務局ニュース、コラム



われわれの使命は、  
常に開発途上国にとって  
有益な存在であり続けることです。



研修関係者の声

Voice from PREX's Friends

## 実り多い実績を、ベトナムの未来へつなぐ

[ベトナム海外研修]

財団法人 海外技術者研修協会(AOTS)の補助金スキームを利用し、ベトナムのダナン市およびホーチミン市で、企業の販売促進または店舗運営に携わる管理者等を対象としたセミナーを実施した。ベトナムでの現地研修は今回で4回目である。今回は商品ディスプレイ方法など現地から強い要望のあった、より具体的・実践的な内容で実施した。本研修の通訳もお願いした、現地協力機関であるベトナム商工会議所ホーチミン支部のレ・ティ・タイン・ビンさんから寄稿いただいた。

ピンさんは、ベトナムのハノイ貿易大学日本語専攻を卒業後、一貫して日本関連事業に携わってきた日本通でPREXとも長い付き合いがある方である。



レ・ティ・  
タイン・ビン 氏

ベトナム商工会議所  
ホーチミン支部  
ビジネス情報センター長

長年、日本との窓口を担当しておりますベトナム商工会議所(VCCI)・ビジネス情報センター長のレ・ティ・タイン・ビンと申します。この度、日本担当窓口に加え、情報サービスにも携わることとなりました。友好的なPREXとVCCIの関係をよりよくすることに思い巡らしています。

ホーチミン市とダナン市(ベトナム中央部)で、PREXとVCCIにより毎年開催されるセミナーのおかげで、企業経営・財務管理・マーケティングの面で、中小企業は経営能力や技術能力を伸ばしてきました。研修参加者の多くは、人材育成・ケーススタディ・PREXスタッフのホスピタリティや細やかな仕事ぶり、そして研修内容や進め方に大変感謝をしています。これらが研修の成功に多大な貢献をしていると思います。また、PREXが推薦する講師は、知識や経験が豊富で、熱心で大変有能です。

PREXとVCCIのこれまでの実り多い実績を基盤にし、PREXがベトナムでより多くの研修が行われるよう期待します。特に、交通のアクセスがよくないところや、貧しい地方での研修の数も増やしていただきたい。また、PREXが民間企業に重点をおいて、ベトナムでのパートナーネットワークを広げていかれてはどうか。今では、ベトナムの企業は研修に対して大変熱心です。



現地店舗への対抗戦略を発表する研修参加者  
(ダナン市、中央左隣が通訳中のピン氏)。



グループ討議の様子(ホーチミン市、中央が杉野講師、右隣が通訳中のピン氏)。



修了証授与式の後で研修員・事務局全員で  
記念写真(ホーチミン市)。

### ベトナム海外研修

#### 「中小企業における販売促進・商品ディスプレイ戦略」

- ◎実施期間 9/6~8 ダナン市、9/11~13 ホーチミン市
- ◎研修参加者 ダナン市40名、ホーチミン市54名
- ◎関係機関 海外技術者研修協会(AOTS)、ベトナム商工会議所ダナン支部・ホーチミン支部
- ◎講師 株式会社スマイル 営業課長(元ハノイ西友 店長) 杉野 隆氏
- ◎内容 商品を販売するとは、商品レイアウトの具体事例、事例研究 等

## バイタリティあふれる研修参加者たちとの10日間

[山東省人事庁訪日研修]

中国山東省とPREXの関係は、このところ俄かに深まっており、今年度だけでも既に2つの研修が実施され10月に更に1件が予定されている。そんな中でこの研修は、山東省人事庁からの委託で、人事庁及び省内各地区人事局の長または副長クラス20名を対象とし、人材の管理・育成が中心の内容で実施した。山東省人事庁委託の研修は昨年度から実施しており、2回目の実施である。

今回は期間が9/17から9/26の10日間で、通常の研修と比べて短い間であったが、充実した内容で実施できたと考えている。

山東省政府は、省内全体を製造業の一大拠点とすることを目指しており、日本企業の誘致に積極的である。そのため一昨年度は、日本企業の現状と中国進出の展望等についての研修を実施した。昨年より人事管理に特化した研修の実施を希望され、前述のポストの方を対象として研修した。講義の一番手として、「日本経済の発展と人材育成」について、神戸大学の石原教授にお願いしたが、中国語による講義に研修参加者も驚きの表情で、まずは開講プログラムとして効果抜群であった。続いて、関西生産性本部の安田コンサルタントによる「企業の人的資源管理」では、具体的な管理手法を中心に講義をして頂いた。最後に、自著(共著)の「明日はこうなる人事とキャリア」(関西生産性本部編)を研修団に寄贈頂き大いに感謝された。その後大阪府庁へ出向き、「職員の能力開発」と「職員の人事評価」という具体的なテー

マについてご紹介頂いた。ここでは、研修参加者自身も同じ公務員という立場もあってか予定していた1時間近くの質疑応答時間があつと言う間に過ぎてしまった。更に、企業見学も兼ね、松下電器歴史館と同人材開発カンパニーを訪問し、松下創業以来の精神に触れると共に、同社における人材育成プログラムを中心として講義を受けた。松下の名は中国でも鳴り響いており、質問は製品や売上関係にまで多岐に亘った。更に、研修終盤は関東へ移動し、日産自動車横浜工場と松下電器パナソニックセンター東京を見学したが、後者では屋外の大型電光掲示板に「熱烈歓迎山東省人事庁訪日研修一行」と大きく表示して頂き、全員の驚きと感激の声に包まれた。

一方、彼等の日本訪問の大きな楽しみは、研修に付随する観光と買い物であるが、観光の方はやや疲れ気味で、写真を撮りまくっては早々にバスに引き上げるとい

うパターンであったが、買い物の意欲は一向に衰えず、回数、時間とも上方修正せざるを得ない結果となった。特に、某社化粧品に人気があり、彼らが去ったあとは正に台風が通り過ぎた如くで店員もあつけにとられる様子であった。また、富士山観光のため三島行きの新幹線を予約していたが車の渋滞のため乗り遅れ、河口湖の旅館に着いたときは夜の9時過ぎになっており、全員疲労困憊していたにも拘わらず、宴会料理や温泉に大はしゃぎで、日本の旅館を楽しんでいただけてほっとした。

今回の研修では、急病人(結果的には大事に至らず)が出たり、新幹線に乗り遅れたり、某所に携帯電話を忘れて…とハプニングが多発し、ドタバタツアーの様相もあつたが、研修そのものは充分満足頂き、丁寧な感謝の言葉を残して帰国された。山東省の研修メンバーは地域の特性か、毎回総じて非常に純粋素朴でほっとさせられる一面があり、難問を投げかけられても何とかしてやりたいという気持ちにさせられる。今後も交流を深め、山東省発展のためにPREXとして是非役に立ちたいと考えている。

—国際交流部 担当部長 稲本 治朗



大阪府庁正面玄関前で集合写真。



研修報告会の様子。



富士山五合目にて。  
清々しい表情の研修参加者たち。



パナソニックセンター前で。  
電光掲示板に表示された歓迎の言葉に感激。

## 団長の声



日本の人材育成の環境は大変良く、政府も重視しており社会も関心を持っていると思います。今後も日本と交流し、長所短所を補い合い友好を強めることで、お互いが発展することを希望しています。

## 山東省人事庁訪日研修

- ◎実施期間 9/17～9/26
- ◎研修参加者 山東省にて行政部門の人材マネジメント人事管理を担当する行政官 20名
- ◎委託元機関 山東省人事庁
- ◎テーマ 人材育成に関するマネジメント能力とサービスレベルの向上、及び山東省の経済発展に資する人材の育成

## お世話になった方々(講義・訪問順・敬称略)

神戸大学 石原享一教授、関西生産性本部 安田弘コンサルタント、大阪府総務部人事室 同にぎわい創造部、松下電器歴史館、松下電器人材開発カンパニー、日産自動車横浜工場、松下電器パナソニックセンター東京



# 世界銀行のネットワークを利用した新たな試み [中国同窓会フォローアップ遠隔セミナー]

2006年9月28日に、世界銀行東京開発ラーニングセンターにて、中国の同窓会フォローアップセミナーを実施した。東京と北京、新疆、そして重慶をTV会議で結び、3時間にわたるプログラムを行うものであった。参加者数は、北京10名、新疆5名、重慶20名の計35名。メイン講師は長年、「中国中小企業振興コース」をご指導いただいている神戸大学・石原教授で、先生の基調講演を皮切りとし、各地からのプレゼンテーションも交えた活発なセミナーとなった。



3拠点を画面で見るとこのような感じ。



石原先生のご講義(現地から見える画面はこのような感じ)。

## ■同窓会とのネットワーク強化

PREXには12の国・地域に同窓会がある。フォローアップセミナーや、現地セミナー開催時などを活用し、同窓会会員との関係維持を図るよう各職員で努力を続けている。しかし、出張は首都が中心、地方でも主要都市に行くことが多く、各地に散らばる同窓会会員が集まるには限界がある。また、いつも多くの同窓会会員が集まれるわけではない。今回フォローアップを実施した中国はその最たるもので、中国で1つの同窓会という訳に行かず地方分会を設けているほどである。

今回世界銀行のネットワークを利用し、フォローアップを図ったのはその中国。集まるのが難しい各地の同窓会分会をテレビ画面上でつなげ、同窓会へのフォローアップ、各地の関係者の関係強化を図るのが目的だ。

## ■遠隔研修にもっと新しい切り口を

この事業の目的はそれだけではない。PREXが実施してきた遠隔タイプの研修について、更なる内容の改善、新たな活用方法などの検討も大きな目的であった。当財団では97年から、アセアン地域を対象に、TV会議システムを使った研修を実施している(通称、遠隔研修)。しかし、アセアン以外での実施や、セミナー・ビジネスコンサルティング的な内容だけではなく、もっと違った遠隔研修についてはまだまだ検討、改善の余地ありだ。今回新しいシステムで、多少なりとも違った内容でトライアルをすることで、前述の点の検討材料も得たい、という目的もあった。

## ■なつかしいお世話になった関係者達

当日は神戸大学の石原先生のご講義を

中心に、北京・新疆・重慶から各地の状況についてプレゼンテーションをしてもらった。また、各地から質問を受け付け、TVスクリーン越しに質問者と先生がやり取りを行うという双方向感のあるセッションも設けた。

また、過去の関係者と当財団の職員が画面を通じ旧交をあたためる場面もあり、TV会議でないとできないなあ、と感じさせるひと幕もあった。

## ■これからの遠隔研修

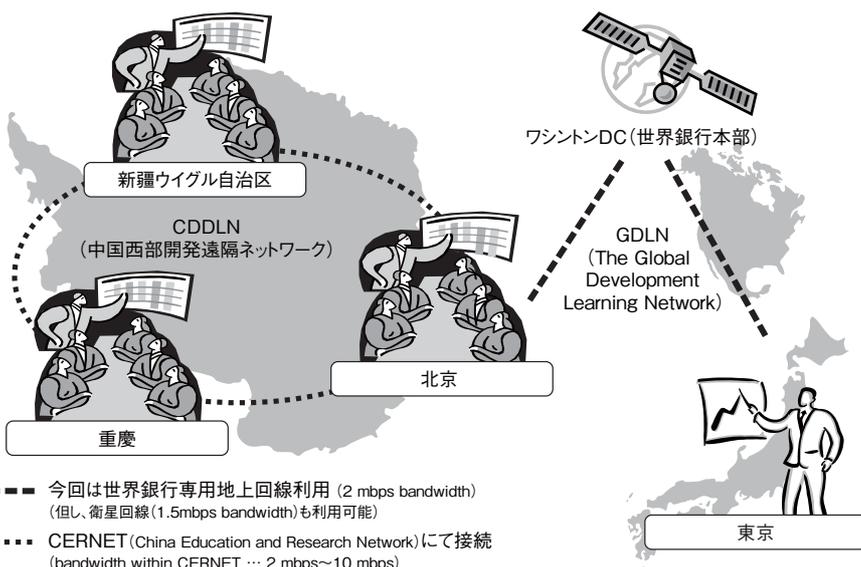
初の試みとしては、スムーズに行き、TV会議ながらそれなりの臨場感もあったと感じられた。今回始めて、世界銀行のネットワークを使わせていただき、初の中国対象に、フォローアップを実施することで違った可能性も見えてきた。発展途上国の人材育成。それには、日本・海外での対面式セミナーしかないのか。日本に来てからすべて学ぶのがいいのか。事前学習はできないのか。テキストを読むだけでなく、少し

は先生の顔を見ながら学習する方法は等々、遠隔研修の可能性と限界を見極めるため、そしてPREXにとって大切なネットワークである同窓会の連携を図るため何ができるのか。今回初のトライアルは「一旦」無事終了をした。これで終り、ではなく、今回の試行をきっかけに新しく何ができるのか、どうすればもっと「いい」ものができるのか。今回のセミナーで宿題が沢山出たような、新しい可能性が少し見えたような気がする。これからのに向けた楽しい挑戦を感じさせてくれるセミナーになった。今後、PREX NOWの紙面に、新しいご報告が出来るような内容をめざし、「可能性」をこれからも探っていきたい。

—国際交流部 主任 関野 史湖

## お世話になった方々(講義・訪問順・敬称略)

神戸大学 国際文化学部 教授・大学院総合人間科学研究科 石原享一教授、中国科学技術部、重慶市科学技術委員会、新疆生産力促進センター、世界銀行東京開発ラーニングセンター



## 新しいカメラに日本の最新情報を記憶！

[ウズベキスタン日本センタービジネスコース受入研修]

9月12日～10月2日までJICAより委託を受け、「ウズベキスタン日本センタービジネスコース受入研修」を実施した。研修参加者3名はウズベキスタン日本センタービジネスコースの受講者で、成績が優秀であったビジネスパーソンである。日本センターで学んだことへの理解を深めるために、この研修では、日本企業の幹部・実務担当者との意見交換や現場見学、ディスカッションを通して、日本企業の経営実態について把握し、体験的な理解を得ることを目的とした。

ウズベキスタンは、旧ソ連からの独立後、民主化及び市場経済化を軸とした改革を推し進めている。経済成長率は7%と高水準を維持しているが、未だ旧社会・経済体制の名残もあり、市場経済の仕組みが浸透していない問題も抱えている。今回の研修で、顧客志向の経営やマーケティングなどの面からも日本の企業経営の現状を把握し、自国で応用するという目的も研修に含まれていた。

研修参加者3名は、PREXとJICAでの講義を終え、企業訪問の初日に、東大阪市のネジ商社「株式会社コノエ」を訪問した。手に手に日本製のデジカメを持っている。確か、来日時には持っていなかった筈、

と違って尋ねてみると、何と前日の日曜日にでんでんタウンに出かけて買ったとのこと。新しいカメラを手に、研修への取組みもまた一段と意欲が高まったようであった。

まず冒頭に河野榮会長から、会社概要の説明を受け、いよいよ倉庫の見学へ。注文伝票が届くや否や、従業員がテキパキと動く様子を、研修参加者一同大いに驚いた様子であった。その後、注文された商品が小さなコンテナに乗せられ、コンテナに貼られたバーコードに従って、指定の場所へ自動的にコンベアで運ばれる事に感心していた。また、各商品棚が細かく区分され、その区分毎に正しく商品が置かれていることが信じられない様子であった。見学中も、「商品は誰が補充するの?」、「顧客へは誰が配送するの?」等、活発に質問があり、写真も許可をいただいた範囲でパチパチ撮っていた。

見学後、事務所へ戻り、インターネット販売についての説明を受けた。ウズベキスタンではまだインターネット販売があまり普及していないらしく、熱心に講義を聞いていた。代金引換やクレジットで円滑に決済が行なわれている点が、ウズベキスタンとは

大分状況が違うようであった。宅配等の小口配送の流通システムの整備も遅れているようで、日本のような方法を移入するには、まだまだ障壁が高いようであった。

研修参加者3名は、日本の電車・バスの時刻の正確さや、シャワー温度の設定のきめ細かさに驚いていたが、この企業訪問により、日本企業の正確さやきめ細かさを知り、改めて日本が経済成長を遂げた理由の一つを垣間見ることができたようであった。

—国際交流部 担当部長 武居 毅、  
国際交流部 塚本 一紗

ウズベキスタン日本センター  
ビジネスコース受入研修

- ◎実施期間 9/12～10/2
- ◎研修参加者 ウズベキスタン日本センターで実施されたビジネスコース成績優秀者 3名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
大阪国際センター
- ◎内 容 企業経営の現場視察、日本の企業経営者との意見交換など

## お世話になった方々 (講義・訪問順・敬称略)

杉本定夫氏、松尾捺染、コノエ、関西電力、ゼロム、和光化学工業、キリン堂、雪印乳業関西チーズ工場、山脇康彦氏、伍魚福、白鶴酒造、島屋ビジネス・インキュベーター、アクアテック、バーネット・インターナショナル、クリエイション・コア東大阪、ドゥー、クロス、西陣織 会館



株式会社コノエ 河野榮会長から  
事業説明を聞く研修参加者たち。



倉庫の見学時もカメラでバンヤ。  
株式会社コノエにて。



和光化学工業の方にお寿司をご馳走になり、  
ご機嫌な研修参加者ら。



クリエイションコア東大阪 下田氏、  
PREXシニア専門家 杉本氏と共に(下段右)。



新製品に興味津々。  
松尾捺染にて。



八坂神社にて。  
日本文化と伝統を体験。

# 国際貢献を日本の文化に—生産性国際交流



財団法人 関西生産性本部  
専務理事  
辻本 健二 氏

世界で最初に生産性本部ができたのはイギリスである。1947年に米英生産性協議会が、米国のヨーロッパ経済復興計画(マーシャル・プラン)の一環で設立された。続いてオランダ、イタリア、西ドイツ、スイス、フランス等々ヨーロッパ諸国に次々と生産性本部が設立されていった。各国の生産性本部の役割は、アメリカに視察団を派遣して生産性向上のノウハウを学び、自国の産業の生産性を高めて経済の復興に寄与することであった。

ヨーロッパの経営者は、「アメリカの生産性が高いのは広大な土地や豊かな資源があるからで、ヨーロッパではとてもそうはいかない」と考えていたのだが、実際に行って最も心を打たれたのは、アメリカの経営者が、マーケティング、生産管理、原価管理、ヒューマン・リレーションズなど様々な生産性向上のための方法を考え懸命に実践している姿であった。産業別、課題別に多くの視察団が派遣され、参加した人たちは、「これなら資源のないわれわれも繁栄できる(We too can prosper)」との感想を抱き、経営の近代化に励んだ。

ヨーロッパの生産性運動の成功をみて、日本にも、と設立されたのは1955年である。アメリカの呼びかけに日本政府と経済界が呼応し、東京に日本生産性本部が設立された。翌年の1956年に関西、中部、四国、九州、続いて東北、中国地方、北海道と全国8つのブロックに設立された。日本においても、アメリカの高い生産性を学ぶことが主要な活動で、1955年から7年間に393チーム、4000人が視察団に参加した。多くの経営者、労働組合リーダー、学者が学んだことをレポートにまとめ、全国各地で報告会を開催した。報告会はどこも立見席ができるほどだったという。当時の日本人の経営近代化への熱気が伺われる。

日本は1960年代から70年代にかけて高度経済成長を成し遂げ、先進国の仲間入りをしたが、その要因の一つに生産性向上運動があるとみたシンガポールのリークアンユー首相が日本政府と生産性本部に協力要請し、1983年から7年間にわたる生産性向上プロジェクトがスタートした。マーケティング、5S、QC、人事

管理など生産性向上のリーダー養成がその主たる内容であった。

このプロジェクトは大きな困難にぶつかった。日本人は「解らないのは自分が悪い」と考える傾向があり、受けた教育によってどんな能力を習得するかは自分の責任だとするが、シンガポールでは「教え方が悪い」と考え、この教育コースを受けたらどのような能力がつくのかをはっきりさせてくれと主張する。日本式の人材育成のスタイルをそのまま持ち込んだのが混乱の原因であった。そこで、教え方やテキストを大幅に変更し、受講する人の立場に立ったプログラムにすることによって大きな成功を収めることができた。

ここから日本が発展途上国の生産性向上のサポートをする役割を担いはじめた。

91年からポーランド、ハンガリー、チェコスロバキア、ユーゴスラビアなどの東ヨーロッパ5カ国、92年からコスタリカ、グアテマラ、エルサルバドルなどの中米5カ国、93年から韓国、同じく93年からタイ、95年からブラジル等々次々と生産性向上プロジェクトがスタートし、夫々の国の経済発展に貢献してきた。

本年4月17日に関西生産性本部は創立50周年を迎えた。緒方貞子さんの「国際貢献を日本の文化に」という記念講演は参加者に大きな感動を与えたが、生産性の国際交流は今や日本の国際貢献の一翼を担う活動になっている。

50年前は一人当たりの国民所得がアメリカの10分の1、イタリアの3分の2、スペインやトルコよりも低かった日本が、今日大きな国際貢献ができるようになったことに誇りを感じると共に、「国際貢献を日本の文化」にまで高めるのは、民間の力による持続的な草の根活動が全国各地で澎湃として起こることが必要である。

民間でかつ関西独自の活動として展開されている太平洋人材交流センターの国際人材交流事業は、まさに「国際貢献を日本の文化に」の時代を切り拓くものである。当本部も時々お手伝いをしているが、今後も手を携え、日本の新しい役割としての人材育成による国際貢献を推進し、日本そして関西の価値を高めていきたいと考えている。

事務局  
ニュース

◎10月1日付人事異動

- 国際交流部長 深田 進氏  
前国際交流部担当部長。松下電器産業から出向。
- 国際交流部担当部長 尾上 暉隆氏  
前国際交流部長。9月末付けで所属企業大阪ガス定年退職に伴い出向解除。10月1日付けでPREX雇用期間限定職員として勤務開始。

11月実施の主な研修

■ インドネシア貿易手続行政改善プロジェクト訪日研修

- ◎期 間 11/2～11/13
- ◎対象者 インドネシアの貿易関連行政担当省庁の責任者 10名
- ◎内 容 輸出入促進 ◎委託元機関 JICA

■ 救急・大災害医療セミナーII

- ◎期 間 11/5～12/6
- ◎対象者 指導的立場で救急医療や災害緊急医療に携わる医師または行政官 11名
- ◎内 容 救急・大災害医療 ◎委託元機関 JICA

■ 中国中小企業振興

- ◎期 間 11/8～12/1
- ◎対象者 中国政府関係機関で企業経営のサポート職に従事している者 10名
- ◎内 容 中小企業振興 ◎委託元機関 JICA

■ ロシア「環境ビジネス」巡回講座

- ◎期 間 11/13～11/21
- ◎対象者 環境ビジネスに関わるロシアの企業経営者及びそれに準ずる者 40名×3
- ◎内 容 経営管理 ◎委託元 外務省

■ 中・東欧特設・中小企業振興セミナー

- ◎期 間 11/13～12/8
- ◎対象者 中小企業振興の政策立案及び実施に従事している官公庁職員 10名
- ◎内 容 中小企業振興 ◎委託元機関 JICA

■ ラオス・ベトナム・キルギス日本センター運営管理

- ◎期 間 11/19～12/9
- ◎対象者 日本センター講師予定者 4名
- ◎内 容 経営管理 ◎委託元機関 JICA

■ マレーシア人事・プロジェクトマネジメント研修

- ◎期 間 11/22～12/8
- ◎対象者 マレーシアの行政機関に勤務する初任行政官 20名
- ◎内 容 経営管理 ◎委託元機関 JICA

■ 関西経済連合会アセアン経営研修

- ◎期 間 11/27～12/1
- ◎対象者 アセアン他8カ国の企業経営者・幹部及び経済団体の幹部など(約10名)
- ◎内 容 経営管理 ◎委託元機関 関西経済連合会

C O L U M N

ドリアンはやはり果物の王様!! <インドネシア>

国際交流部長 深田 進

インドネシアのメダンに行ったときにドリアンに出会いました。タイでは超有名なドリアンも出張者にはホテル持ち込みも厳禁でなかなか食べる機会がありませんが、ここメダンでは一緒にアテンドしてくれたインドネシア人が、大のドリアン好き。車を飛ばし、路上の露天商を探して、ドリアンを食べにいきました。

ドリアンはご存知のごとく、マレー語で(トゲ)の意味ですが、インドシナ半島が原産、表面のトゲと強烈なる臭いで害虫もやっつけず、自然界の恵みものとはばかりに人間様の胃袋に納まります。

この臭さに辟易する人もいますが、鉈で叩き割って、すぐに食べるクリーミー状の果肉はその甘さとなんともいえない食感が最高です。いかに美味しいものに出会うか。プロたる売人の識別力を信じてどンドン殻を割らせるものの、納得する熟れ具合がでてくるまで決して妥協をしない、冷酷なまでの強い意志が勝負どころ。こんなに強烈な臭いと甘さでさぞかしカロリーも高いと思いきや、意外と少ないのです、約150Kcal/100gだそうです。

こちらは久しぶりにドリアンに出会ってついつい食べすぎてしまい、ゲップがでたときのあの臭いで自分が苦しくなったのには苦笑いです、なにごとくも適量ですね。でも、巷に死の食い合わせと言われている、「ドリアン食べて酒は飲むな」だけは守りました。。。



ドリアンを割って、熟れ具合を確かめている。

ごろごろと並べられたドリアン。

PREXの  
研修実績

2006年  
9月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

●研修累計(1990～)

306コース

●受講者累計(1990～)

107カ国・地域 9,517名

【受入(訪日)研修 2,933名/  
海外研修 6,584名】

●2006年度計画

41コース 1,157名

【受入研修 30件/海外研修 6件/交流事業 5件】

●2005年度実績

35コース 1,167名

【受入研修 25件/海外研修 9件/交流事業 1件】